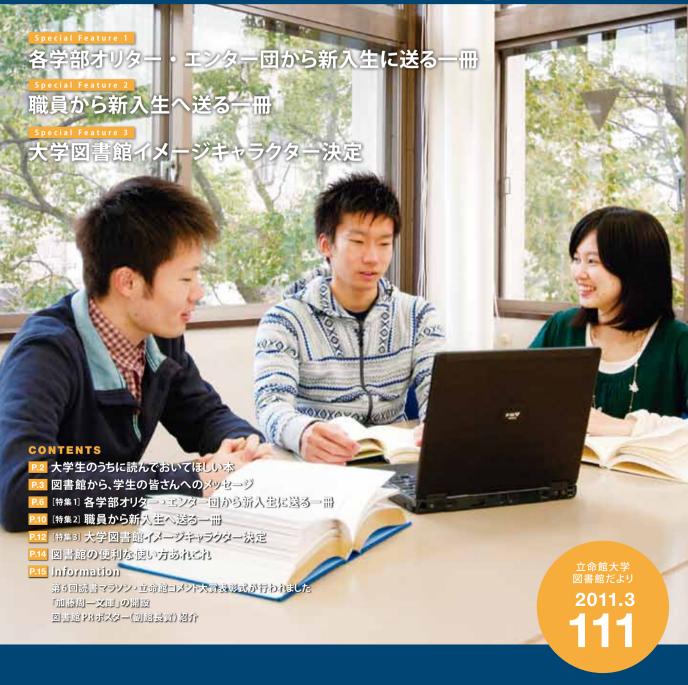


# Library Navigator



### 大 学 生 の う ち に 読 ん で お い て ほ し い 本

vol. 8 高 倉 秀 行 先生(総合理工学院理工学部教授・図書館副館長)

今号はコレ!





この生き方に賛同するか批判するかはあなたの自由である

### 『われら何をなすべきか』

トルストイ著:米川正夫訳 角川書店1968年

大学生の間に読んでおきたい本の本原稿を依頼され、はたと困った。理工学に関する論文や専門書は読むものの、最近これに値する本はほとんど読んでいないからである。しからば、自分が大学生の時に読んだ本がいいと思い立ち、蔵書を眺めてみる。朝永振一郎著「量子力学的世界像」、ガモフ著「1、2、3…無限大」が良いか?ジョージ・オーエルの「1984」も確か読んだ記憶がある。しかし、ちょっとマニアックすぎる。それではと取り出したのが、今回紹介したい一冊である。

トルストイの著書といえば、「戦争と平和」「アンナ・カレーニナ」が特に有名であるが、ふとしたことでこの題名に引かれ手に取った。1970年ころの学生運動盛んな学部学生時代である、それから約40年、改めて手に取ることはなかったが、この本の最後に書かれた一文、「しかり、母なる女性よ、この世の救いは何人にもまして、御身らの掌中に握られているのである」(上記文庫より引用)がわずかに記憶の彼方にあり、何でこんな結論になったのであろうという疑問だけが、頭の隅に残っていた本である。

文庫本で100ページぐらいだったろうとの思いで、本棚を探して見つけたが、なんと321ページの大作である。最初のページから読みだしたが、とても原稿締め切りまでに間に合いそうにないことがわかった。ルール違反であるが、訳者が、最後に記している解説をまず読む。原稿は、いくつかの部分に分かれて書かれたこと、当初38章で終わりであった原稿が、2章追加されて40章で構成されていること、これは小説と言うよりは、

論文の形式をとっていることなどが記されている。

早速38章を読んでみる。あったあった。我ら何をなすべき かの結論が次のように記されている。要約すると、

第一、自らを欺かないこと、(後略)。

第二、他人に対する自己の正義、優越、特権を拒否して、お のれに罪ありと認めること。

第三、(中略) いかなる労働も恥じずして、自己ならびに他人 の生命を維持するために、自然と戦うこと。

39章では、これらを実践することでどのようなことが期待されるかについて説明されていく。読み進めると、ジョン・レノンの「イマジン」がオーバーラップする感覚に陥る。そして最終章、男に与えられた労働の法則、女に与えられた出産の法則から始まり、上述の「しかり、母なる(云々)」で終わっているのである。

なお、28章から30章にかけて、実証主義に基づく現代の科学論にも、鋭く切り込んでおり、科学に携わる人々には一度読んでみる価値がある。

この本は、1886年トルストイ58歳のときに完成したが、全容が世に出たのは1913年である。トルストイは1910年に82歳で没している。裕福な家に生まれたトルストイであるが、様々な人生経験を通して自分の生き方について悩んだ結果を書き綴った書である。読破するにはかなりの忍耐力がいるが、一度読んで見られたらどうか。この生き方に賛同するか批判するかはあなたの自由である。

# 図書館から 学生の皆さんへのメッセージ

~立命館大学図書館は、皆さんの学びを応援します~



新入生の皆さん。入学おめでとうございます。

在学生の皆さんも、それぞれ新しい回生となる春を迎え、これからの学びを改めて見つめなおしていることでしょう。

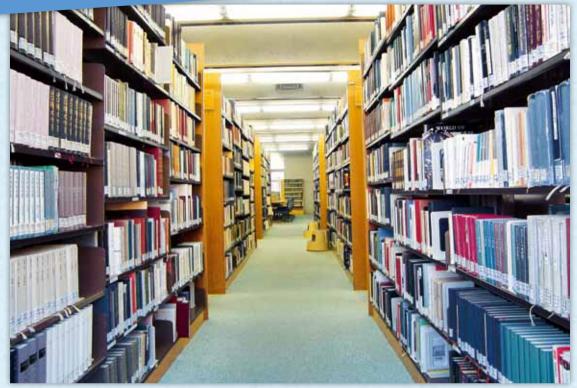
さて、大学の図書館とは、皆さんにとってどのような場所でしょうか。大学は、教育課程の最終段階にある最高学府であり、大学を卒業すれば多くの皆さんは社会へと出て行きます。そのためにも、大学ではさまざまな力を身につける必要があります。大学で学ぶにあたり、大切なことは「教えられる」ことから「自ら学ぶ」ことへの学習習慣の転換を図ることです。このような表現は少し難しく感じられるかもしれませんが、自ら学ぶとは〈課題を見つけ、考え、調べ、読み、書く〉という工程の繰り返しです。この学習習慣をいかに早く身につけるかが、大学での学びを深め、学びをより楽しむための鍵となります。せっかく大学で過ごす4年間です。ただ教えられることを受け身で学ぶよりも、自分から学んでみる機会を積極的に増やそうではありませんか。これは卒業後も皆さんを支える一生の財産となります。

自ら学ぶために、図書館は格好の場所です。ぜひ立命館大学図書館を活用してください。ただしこれは、「図書館にはひとりで静かに学習する場所(閲覧室)と数多くの蔵書がある」というだけの意味ではありません。図書館の活用方法は、皆さんの学習意欲によって多彩な展開の可能性を持っています。

いま、立命館大学図書館は大きな変化を迎えようとする時期にあります。学習者(大学で学ぶ皆さんのことです)が中心となる「学びのコミュニティ」を構成するにふさわしい施設として、「学びが見える・学びに触れる・学び合える」図書館へと変革を遂げようとしています。

これまでの図書館は、ひとりで静かに本を読み、調べものをするための場所でした。これからの図書館は学習者の皆さんが学びを深めることに大きく役立つために、例えば友人どうしで話し合いながら学び、プレゼンテーションの練習なども可能なスペースの設置や、学習を進める上で疑問に感じること・サポートを受けたいことを気軽に相談できる支

# 図書館から学生の皆さんへのメッセージ



衣笠図書館書架

援デスクの設置などを進めていきます。衣笠キャンパスの学習用図書館である衣笠図書館では、この春から旧マルチメディアルームを改修・拡大し、ピア・ラーニング・ルーム (略称:PLR) を開設します。ここでは、これまでのマルチメディアルームとは異なり、単にデスクトップ型パソコンを個人で利用するためのスペースではなく、①「気づく場」(学生どうしで話し合いの出来る場、グループワーク、協同学習)、②「知る場」(カウンターで支援スタッフからのサポートが得られる場や、PC利用エリア)、③「練り上げる場」(ディスカッションエリア)、④「発信する場」(プレゼンテーションルーム)などのゾーンを用意し、情報機器を利用しながら学習プロセスを共有できる学習空間として展開します。

ここでは皆さんが主役です。皆さん自身が、自らの学びを一歩高めるために、あるいは深めるために、どのようにPLR を活用していくのか、私たち図書館もこの春からの皆さんのPLR活用を楽しみにしています。

BKCには二つの図書館があります。メディアセンター(主として理工系学部対象)と、メディアライブラリー(主として文社系学部)です。この両図書館においても、2012年度以降順次、BKC所属学生の学習支援を更に発展できる機能を持つ施設を開設すべく、現在準備が進められています。

メディアライブラリーでは、2011年4月からノートパソコン30台の図書館内貸出を行います。これまではデスクトップ型パソコンにひとりで向かい、検索やレポート作成を行う姿が一般的なものでしたが、この春からは図書館内でノートパソコンを持ち運び、時には友人と相談・協力しながら学習を進めていく姿が見られることでしょう。

もちろん図書館はひとりで学習を進める・読書をするための場所でもあります。これは、図書館が持つ重要な機能ですから、ひとりで学習や読書を行う利用者が快適に過ごせる環境は大切にしなければなりません。この点から、複数で話し合いながら学習を進めることのできるエリアは衣笠図書館・メディアライブラリー・メディアセンターともに限られてはいますが、スペースを有効に活用して学習を深められることを期待しています。



メディアライブラリー書架

ところで、ひとりで学ぶことと、仲間とともに学ぶことの違いは何でしょうか。

言うまでもありませんが、学習の基本はひとりで学ぶことにあります。課題認識も目標設定も、調べるプロセスも人それぞれ異なって当然だからです。しかし大学で学ぶことの面白さの1つとして、それらを仲間と共有し、解決までの道筋をたてることが挙げられます。

まだ講義で学んでいない課題についてレポートを書く必要が出てくるかも知れません。あるいは「明確な回答」など簡単に見つけられないような疑問に出会うかもしれません。そのような時に、仲間と意見交換する中で、自分が知らなかった視点を学ぶことができ、視野が広がります。「仲間」である他者にとっても、同じことが言えるでしょう。このような経験の積み重ねは、皆さんが自立した学習者へと成長することを大きく助ける要素となります。

大学に入学した直後から、スムーズに大学での学びを開始できる人は多くありません。新入生に限らず、在学生でも大学での学びに不安を抱えている人はいるかもしれません。そのような場合には、ひとりで不安を感じるのではなく、先生方や周りの仲間、オリター・エンターの皆さんなどの力を借りて、同時に大学の各部署のサポート等も求めながら、自分なりの学びのスタイルを確立してください。

学びを進める上では、豊富な量の学術情報(学術文献やデータベース類)に触れることが何より重要です。本学図書館にはおよそ280万冊の蔵書があり、この数字は日本国内の大学でもトップクラスです。図書館とその資料・サービスを最大限に活用することで、皆さんの学習をより深めてください。ぜひ積極的に図書館を利用してください。

立命館大学で仲間と出会い、仲間とともに主体的に学び、大きな成長を遂げられることを願っています。「立命館大学で学んでよかった」を実現するために、図書館も皆さんをサポートしていきます。

# 各学部オリター・エンター団から 新入生に送る一冊

Contents ①推薦フレーズ ②本人情報 ③書誌情報



- ②西明 駿介さん 法学部 法学科 2回生
- ⑤『フリーター、家を買う。』 有川 浩著(幻冬舎) 2009年



- 2長村 冴香さん 文学部 人文学科 2回生
- ③『終末のフール』 伊坂幸太郎著(集英社)2009年



- 2澤田 史門さん 産業社会学部 現代社会学科 2回生
- 3『はたらきたい。:ほぼ日の就職論』 糸井 重里 監修(東京糸井重里事務所)2008年



- ❷切石 麻美さん 法学部 法学科 2回牛
- 3『法律学入門』 佐藤 幸治 [ほか] 著(有斐閣) 2006年



●自分の位置を知らせてくれた本

- 2村本 孝太郎さん 文学部 人文学科 2回生
- 3『世界がもし100人の村だったら』 池田 香代子再話:C. ダグラス・ラミス対訳 (マガジンハウス)2001-2008年



- ❷髙杉 洋平さん 産業社会学部 現代社会学科 2回生
- ⑤『もの食う人びと』 辺見 庸著(共同通信社)1994年



「読書は大切だ」、誰もが一度は聞いたことがあるフレーズです。大学生になって、4年間でたくさん本を読みたい、そう思っている新入生の皆さんもたくさんいると思います。最も頼れる先輩であろう各学部のオリター・エンター団に所属する学生さんに、「新入生へ送る一冊」を紹介してもらいました。どのような点がお薦めなのかをワンフレーズに凝縮して語ってもらっています。

今回紹介された本に興味があれば、ぜひ図書館で借りてみてください。そして読書の魅力を体感してください。 そうすれば、次に読みたい本はきっと自然と見つかると思います。一人でも多くの皆さんが大学生活の中でたくさんの 本と出会われることを願っています。



●「日本人」としての誇りを感じられる本

- ❷藤田 博樹さん
- 国際関係学部 国際関係学科 2回生
- 3『日中の興亡』

青山繁晴著(PHP研究所)2008年



❷亀谷 遼輔さん

映像学部 映像学科 1回生

❸『堕落論』

坂口安吾著(角川書店)2007年



②末廣 芽衣さん 政策科学部 政策科学科 3回生

- ●『佐和教授はじめての経済講義』 佐和 隆光 著(日本経済新聞出版社)2008年
- \*2011年4月からは学部自治委員として活動します。



- ②小野 夏海さん国際関係学部 国際関係学科 1回生
- ③『国際連合:軌跡と展望』 明石 康著(岩波書店)2006年



- ②李 博子さん 映像学部 映像学科 1回生
- ③『オーデュボンの祈り』 伊坂 幸太郎 著(新潮社)2003年



- ❷埜瀬 雄大さん
- 政策科学部 政策科学科 2回生
- **③**『読書力』

齋藤 孝著(岩波書店)2002年

### 各学部オリター・エンター団から新入生に

Contents ①推薦フレーズ ②本人情報 ③書誌情報



- ❷加藤 諒さん 経済学部 経済学科 2回生
- 3『ユニクロ型デフレと国家破産』 浜 矩子著(文藝春秋)2010年



- 2岡本 茜さん 経営学部 経営学科 2回生
- 3『ケータイを持ったサル:人間らしさの崩壊』 正高信男著(中央公論新社)2003年



- 2藤吉健次さん
- スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科 1回生
- ❸『夢を実現させる仕事』
- 平田 竹男、中村 好男 編著 (講談社) 2008年



- 2手操 梨々花さん 経済学部 経済学科 2回生
- 3『ヤバイ経済学:悪ガキ教授が世の裏側を探検 する』

スティーヴン・D・レヴィット、スティーヴン・J・ダ ブナー 著(東洋経済新報社)2007年



- ❷新庄 匠さん 経営学部 経営学科 2回生
- ₃『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカー の「マネジメント」を読んだら』 岩崎 夏海 著 (ダイヤモンド社) 2009年



●自分の将来像を教えてくれた本

- 2 今井 友子さん
  - スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科 1回生
- 3『スポーツを仕事にする!』

生島 淳著(筑摩書房)2010年

### 送る一冊





●人間にとって最大の贅沢とは、 人間関係における贅沢のことである

- ②黒岩 晃平さん 理工学部 都市システム工学科 2回生
- ③『砂漠』 伊坂 幸太郎 著(実業之日本社)2008年



●"新しい方向に進めば新しいチーズが見っかる。"変化が楽しみになる物語です。

- ②平井 佐和さん 情報理工学部 知能情報学科 2回生
- ③『チーズはどこへ消えた?』 スペンサー・ジョンソン 著(扶桑社) 2000年



●知識や意識は生きるための材料です。だから、それを使おうとする行動が必要なのです。

- ②中根 隆浩さん 生命科学部 生命医科学科 2回生
- ●『行動することが生きることである-生き方についての343の知恵』
- 宇野 千代 著(集英社文庫) 1993年



- ②岡村 愛子さん理工学部 数理科学科 1回生
- ③『一瞬の風になれ』 佐藤 多佳子 著(講談社)2006年



- ❷酒井 一匡さん
  - 情報理工学部情報コミュニケーション学科 2回生
- ③『チームリーダーの教科書:図解』 藤巻 幸夫 著(ダイヤモンド社)2010年



- ❷亀川 弥那さん
  - 薬学部 薬学科 1回生
- ③『インシテミル』
  米澤 穂信 著(文藝春秋) 2007年

\*学生の学部・回生は、2011年3月時点の所属を示しています。



### 特集 2

### 職員から新入生へ送る一冊

衣笠 キャンパス 入学センター 入試広報課 一柳 晋也さん

### 『マネジメント:基本と原則』

P. F. ドラッカー 著 上田惇生 編訳 (ダイヤモンド社) 2001年

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。いよいよ大学生活が始まりますね。新たな生活に期待を膨らませている頃ではないでしょうか。

さて、立命館大学の学びの特長は、「コミュニティ」の中で学ぶことです。コミュニティでは、様々な人が集まり、組織として成り立っています。その人たちは、共通する興味関心・問題意識やテーマ性を持っていますが、全員が同じ考えであるとは限りません。そうした組織が、同じ方向に向かうため「何のために組織の活動が存在しているのか?」「そこでの自分の獲得目標は何か?」を考えることが大切です。その時に、道標となる図書が「マネジメント」です。

立命館大学には「基礎演習」を始め、多くのコミュニティがあります。様々な活動を通して、充実した大学生活となることを願っています。



衣笠 キャンパス 教学部 教育開発支援課 河合 昭依さん

**『学びのティップス─大学で鍛える思考法』** 

近田政博 著(玉川大学出版部) 2009年

「ティップス」(tips)とは、ちょっとした「コツ」や「ノウハウ」という意味です。大学での学びでは、高校時代までとは異なり、自ら学ぶ姿勢が不可欠になります。では、自ら学ぶ習慣を身につけるためにはどうしたらよいのでしょうか。

本書では、はじめに大学で学ぶことの意味を紹介したうえで、大学での学びのための32の「ティップス」が紹介されています。基本となる思考法とともに、大学生活におけるヒントが具体的に分かりやすく紹介されており、新入生の皆さんにとって大学での学びの入門としてとても参考になる内容です。コンパクトにまとまっているので、大学での学びを充実したものとするためのヒント集として、ぜひ参考にしてみてください。



衣笠 キャンパス キャリアセンター キャリアオフィス 多賀谷 祥博さん

#### 『すべては一杯のコーヒーから』

松田 公太 著(新潮社) 2005年

今となっては皆さんに身近なタリーズコーヒー。本書はそのタリーズコーヒーを27歳の若さで 創業した元大手銀行マンの起業物語です。普通のサラリーマンだった男になぜできたのか? その 答えは彼には明確は「夢・目標」が存在したからです。就職活動においても、学生に将来実現した い「夢・目標」を問う企業が増えています。企業が学生に求めているのは、就活テクニックではなく、 将来における 「志」です。 この本は、皆さんが自分の将来を真剣に考える良いきっかけになると思い推薦しました。これから始まる大学生活を充実させることこそが、 将来の夢を明確にする最大の取り組みです。皆さんの学生生活が実りあるものになることを応援しています。



新入生の皆さんは「大学職員」という言葉から、どのような人々を思い浮かべますか?おそらくは皆さんが所属している学部で働いている方をイメージすると思います。実は大学にはまだまだたくさんの職員が働いています。今回は学部事務室とは一味違った部署で働く職員から皆さんにお薦めの本を紹介してもらいます。「特集1」と合わせてぜひお気に入りの一冊を見つけてください。

びわこ・くさつ キャンパス 教学部 教務課 太田 絵梨さん

## 『20歳のときに知っておきたかったこと:スタンフォード大学集中講義』

ティナ・シーリグ著 高遠 裕子 訳 (阪急コミュニケーションズ) 2010年

最初に言っておきます。大学は、あなたの期待していることをほとんど与えてくれません。 あなたが大学生のうちに、与えられるものはただ一つ。それは、チャンスです。挑戦するチャン ス、成功するチャンス、そして失敗するチャンスです。大学はあなたに何も与えてくれないけれど、 チャンスという宝物を、高校の数百倍、キャンパスの中や外にちりばめています。しかし、その宝 物は、「見つけ方」をしらないと見つけることができません。本書は、その「見つけ方」のヒントを 与えてくれます。今日あなたが見過ごしたたくさんのチャンスに気づきたい方は、読んでみること をお薦めします。



びわこ・くさつ キャンパス キャリアセンター エクステンション事業課 西村 亮さん

### 『フラット化する世界:経済の大転換と人間の未来』

トーマス・フリードマン著 伏見 威蕃 訳 (日本経済新聞出版社) 2010年

今年、名も無い人々が結束し、チュニジアやエジプトの政権崩壊を引き起こしました。時代は、 国際化、ボーダレス化が進み、個人が大きな力を発揮できる時代へ変化しています。もちろん、 政治活動だけでなく、仕事という面でも個人が活躍できるフィールドが拡がっています。

これまでのように、国や企業ばかりでなく、個人がどうあるべきかが問われる時代になってきていると言えるのではないでしょうか。

このような時代にあっては、世界で起きていることを知ることが、今自分が何をするべきかを知るためのヒントになります。

本書では、私たちが生きてきたこの20年ほどの間に、世界で何が起こっていたのかをわかりやすく具体的に説明していますので、ぜひ一度読んでみてください。



びわこ・くさつ キャンパス

#### 学生部 学生オフィス 星野 泉さん

### 『チーム──堂場 瞬 ─ スポーツ小 説コレクション』

堂場 瞬一 著(実業之日本社)2010年

「チーム」は、箱根駅伝に出場する「学連選抜」のお話です。「学連選抜」とは、予選で敗退した大学からの選抜チームです。自分が入学以来苦楽を共にした仲間でもなく、「敗者の寄せ集め」と呼ばれるチームの中で、それでも自分たちの走る意義を見つけ、チームとして優勝を目指す。立命館は陸上の強豪大学ですが、だからこの小説を読んでほしいわけではありません。新入生のみなさんには、仲間はどこででも見つけられる、ということを知ってほしい。自分の今いるコミュニティだけが「チーム」なのではなく、可能性はいくらでもあります。高校までしてきたことでも、大学に入って初めてのことでもなんでもいいので、何かを始めてみてください。



特集3

### 大学図書館 イメージキャラクター決定

立命館大学図書館、APUライブラリーでは、「大学生が日常的に親しみをもって大学図書館に集い、大学図書館の活動に参加する」きっかけづくりや仕掛けとして様々な場面で活用することができるイメージキャラクターを2010年11月1日(月)~11月30日(火)の期間で募集しました。

応募の対象を立命館大学および立命館アジア太平洋大学の学部生・大学院生・教職員にとどまらず、立命館中学校・高等学校、立命館宇治中学校・高等学校、立命館宇治中学校・高等学校、立命館守山中学校・高等学校、立命館小学校の在校生・教職員としたこともあり、応募総数164件、一次選考通過作品への学内投票総数242件と、非常にたくさんの皆さんに興味・関心をお持ちいただくことができました。

学内投票数や応募用紙記載のキャラクター説明・PR事項を踏まえて厳正に審査した結果、採用作品は「No.1 よむりす(仮称)」に決定いたしました。

よむりす(仮称)



#### その他のパターン







- \*掲載されている作品は2011年2月22日時点のものです。
- \*学内投票時とのデザインの差異について

受賞したキャラクターはペースデザインとして位置づけております。より洗練されたキャラクターとして紹介できるよう、現在校正しています。合わせて、「APU」バージョンも作成中です。完成版「よむりす(仮称)」は上記イメージと異なる場合があります。

また、2011年2月22日(火)に衣笠図書館館長室にて、「大学図書館イメージキャラクター表彰式」 が開催されました。受賞者、図書館長、副館長のコメントをご紹介します。

#### (♥) 受賞者のコメント 文学部人文学科 4回生 林 英里子さん

この度は大学図書館イメージキャラクターの採用作品として選出していただき、ありがとうございました。

また二次選考の投票においてもたくさんの皆さんから投票していただけたことをとても嬉しく 思います。

図書館は大学生活の中で、一番お世話になった場所です。

その図書館に対して、卒業する前に貢献することができ、本当に良かったです。



### (♥) 図書館長のコメント 法学部教授・図書館長 吉田 美喜夫先生

この間、本学は、「新図書館構想」について議論を重ね、政策文書を確定する段階に到達しました。 検討の材料を得るため、私どもは、国内の多くの大学図書館を見学し、またボストンを中心とした アメリカの大学図書館にも行ってきました。ボストンは歴史のある美しい街で、その中に位置す るどの大学も、自然と一体化した見事なキャンパスでした。その証拠に、キャンパス内でリスに 出会うことができるのです。このようなキャンパスを立命館でも実現したいと強く思いました。 もちろん、衣笠山の麓の立命館でリスを見ることはできませんが、今回のイメージキャラクター



の入賞がリスをデザインした作品となり、まるで我々のもとにハーバード大学のキャンパスと同じようにリスが飛び込んできた思いがしました。

このようなキャラクターを創造してくれた入賞者の林さんに感謝します。また、今回の企画に多くの皆さんが応募していただいたことにもお礼を申し上げます。

これからも、全学の応援に応え、すばらしい図書館を作り上げていきたいと考えています。

### 😈 副館長のコメント 理工学部教授・副館長 高倉 秀行先生

館長のコメントと重なる部分もありますが、海外のいくつかの大学で経験したことから申し上げると、大学のキャンパスにはリスが似合います。

そして大学図書館は大学の顔であり、図書館の存在はとても大事な存在です。

このキャラクターはその大学図書館の顔・シンボルとしてこれから世に出て行くことになりますので、ぜひ多くの人の目に触れて欲しいと思います。



今後図書館関連ポスターや図書館 ホームページへの登場、グッズ等 での展開を通じて、図書館の広報 力を強化していく予定です。ご期 待ください!

#### 〈活用例〉

- ●図書館作成各種ポスター(広報ポスター、開館カレンダー配布用等)
- ②Library NavigatorおよびLibrary Guide等図書館刊行物
- ③図書館ホームページ、RAILの説明またはQ&A
- ●新入生リテラシー教材への導入
- ⑤各種グッズ(しおり、メモ用紙、携帯ストラップ、ボールペン等)

\*学生の学部・回生は、2011年3月時点の所属を示しています。

WHAT THE

### 図書館の便利な使い方あれこれ



大森 彩加さん 産業社会学部 現代社会学科 4回生



福田 佑介さん 理工学部 マイクロ機械システム工学科 3回生

新入生の皆さん、図書館のホームページをもうご覧になりましたか? 図書館というと、「建物」のみをイメージすることが多いかと思いますが、大学 図書館では、web上でも様々なサービスを提供しています。その一つとして、 資料や資源、検索ツールを自分の書斎や勉強部屋のように整理することができる、「My Library」という機能があります。こういったオンラインサービスを知っているかどうかで皆さんの大学生活における「学び」が大きく変わってくるといっても過言ではありません。今回は、2名の学生にその魅力を対談形式で語ってもらいます。対談を読んだ後、ぜひ皆さんも実際に利用してみてください!

\*学生の学部・回生は、2011年3月時点の所属を示しています。

#### 

大森 入学当初は本の探し方すらわかりませんでした。またレポートや課題が出た際に、探していた資料がびわこ・くさつキャンパス(以下「BKC」)の図書館にしかなくて取寄せて利用できることを知らず、衣笠図書館にある別の資料で済ませてしまったことがあります。

福田 「My Library」を利用すれば、他キャンパスにある資料を取寄せることができたり、貸出中の資料に予約をかけたりすることができるなど、本当に便利ですよね。衣笠キャンパスとBKC間であれば翌日の夕方、立命館アジア太平洋大学(以下「APU」)の資料であれば概ね3日後には利用することが可能です。それから今自分が借りている図書の返却期限の確認もできるので、延滞してしまうことを防ぐことができます。

大森 そうですね。学内だけでなく、自宅のパソコンからも「My Library」を利用して、予約・取寄せや延長できることを知らないと損だと思います。明日が返却期限日なのに、まだ読みきれていない本があった時は自宅から延長することができてとても助かりました。

もっと早くから「My Library」の存在を知っていれば、学びの幅が広かったと思います。

福田 私は理工学部なのでBKCの図書館をよく利用しますが、衣笠に所蔵されている本も取寄せてよく利用しています。キャンパスによって学部が異なるので、図書館に所蔵されている資料の分野も異なってくることを覚えておくといいと思います。もちろん衣笠キャンパスと、BKCの両方の図書館にも所蔵している資料はあります。ただ、キャンパスによって人気のある資料が違うのでBKCにある資料は貸出中だけど、衣笠にある資料は取寄せ可能という場合もあります。「My Library」を利用すると所属キャンパスの資料だけではく、APUを含めた280万冊以上の資料を利用することができるので、学びの幅が広がります。

大森 所蔵されていない資料があれば、購入希望を出すこともできます。

福田 購入希望用紙を直接カウンターへ出すこともできますし、「My Library」から出すこともできるので、このことも積極的に新入生に伝えていきたいですよね。

——最後に二人にとって「My Library」とはどのような存在かを聞かせてもらえますか?

福田 「私の読書ライフを便利にしてくれるもの」です。

大森「自分の読みたい本が管理できるもの」です。

----本日はありがとうございました。

\*資料の「予約・取り寄せ」や「延長」について、一部制限があります。詳細は「My Library」をご確認ください。





資料の予約 取寄せはこちらから 、確認できます。

14 \* Library Navigator

### □ 第6回読書マラソン・ 立命館コメント大賞表彰式が行われました

2010年12月20日朱雀キャンパスにて第6回読書マラソン・立命館コメント大賞の表彰式が行われました。今年度は、大学部門82通、附属校部門1,477通から、生協理事長、図書館長をはじめとする審査員の審査のもと、グランプリ、生協理事長賞、図書館長賞等各賞が選ばれました。

なお、2011年度の読書マラソン・立命館コメント大賞は、例年 通り6月頃から募集を開始する予定です。ぜひこの機会に読むだけ ではなく、書く楽しさや人に何かを伝える楽しさを経験できる読書 マラソンにご参加下さい。



#### ■ 読書マラソン・コメント大賞とは…

全国の大学生協が「大学4年間で100冊読もう」をキャッチフレーズに行っている読書推進の取組みで、随時参加者を受け付けています。詳細は、各キャンパス生協書籍部までお問い合わせください。コメント大賞は、朝日新聞社の協力を得て全国規模で募集し、優れたコメントを表彰する企画で、立命館大学でも「立命館コメント大賞」として同時期に実施しています。

#### ■ 図書館長賞受賞コメント

#### 書名「子どもが育つ条件:家族心理学から考える」 柏木 恵子 著 岩波書店

この本を読んで、目から鱗という気がした。現代社会では、大学までは、比較的男女の差はなく学ぶことができ、その差を感じることは少ない。しかし、この著者が書いているように、結婚・出産を機に男女の置かれている状況に差が開く。そしてジレンマの末、専業主婦になり、筆者のいう「先回り育児」にのめりこんでいく。その結果、自己肯定感が乏しく、自分で決められない人間が育っている。まさに今、そんな若者が増えているのではないかと感じた。筆者は、子育てを通して、女性だけでなく男性も子どもとともに育つこと、つまり、生涯発達の視点が重要だと述べている。男女を問わず、これから社会へと羽ばたく前の大学生にぜひ読んでほしい一冊である。(ペンネーム たんぽぽ)

### □「加藤周一文庫」の開設

本学の国際平和ミュージアム館長および国際関係学部客員教授を務められ、戦後日本を代表する知識人として著名な評論家の故・加藤周一先生の蔵書約1万5千冊と自筆のメモ・ノート類を、ご遺族より立命館大学にご寄贈いただきましたので、「加藤周一文庫」として2014年4月図書館に開設する運びとなりました。

「加藤周一文庫」には、文学、宗教、哲学、芸術、政治、歴史などさまざまな分野の蔵書に加え、日本語のみならず、英語、ドイツ語、フランス語、ラテン語などの多言語で書かれた自筆のメモやノートなども多数収蔵されます。

世界中で翻訳されている『日本文学史序説』や朝日新聞に掲載された時事評論『夕陽妄語(せきようもうご)』を執筆された際の自筆メモやノートなど、極めて貴重な研究資料が含まれています。加藤周一先生のこれらの蔵書や資料を本学図書館のコレクションとして収蔵し積極的に利用に供することによって、今後の加藤周一研究の重要な拠点として本学図書館が社会的に注目されるばかりでなく、本学の学生・院生の学習や研究に大きな刺激を与えることが期待されます。

なお、図書館では、2011年より約3年かけて資料の整理を行い、2014年4月に「加藤周一文庫」を衣笠図書館に開設し、本学学生・院生をはじめ、広く一般公開をする予定です。

### 図書館 P R ポスター(副館長賞)紹介

図書館をアカデミックな場としてだけではなく、学生が学び交流する身近な場として関心を高めてもらうことを目 的として、2010年度前期に環境・デザインインスティテュートの専門演習(担当: 佐藤典司 経営学部教授)に所属 する学生の皆さんに班毎に分かれてポスター作成に取り組んでいただきました。ゼミOBの方々にもご協力いただ き「図書館副館長賞」として完成したポスターをご紹介します。

今回のポスターには、「音楽を聴くような感覚でもっと気軽に本を読んでもらいたい」という想いが込められています。



